(月曜及祭日之翌日休刊)(日刊)(明治四十一年十二月三日第三種郵便物認可)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年 紀元二千五百七十一年

定價 本紙一枚金三錢 一ヶ月前金三十錢 三ヶ月前金九十錢 六ヶ月前金一圓八十錢 郵稅一ヶ月十五錢

月曜日及び祭日の翌日は休刊(日刊)

廣告料 五號活字十七字詰一行一回金五十錢 特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久靜一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話大三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二二一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

獨逸と殖民地(六)

ケーオー生

司法的制限は行政に比して非常なる制限を加へて居る、之は保護領地法第三條で領事裁判法の第十九條を殖民地に適用して居る結果である、此十九條には領事裁判では帝國の私法的各法律、刑罰法的各法律を用ゐることになつて居る此屬人的法律を其儘殖民地に於て屬地的にして母國の民法刑法訴訟法其他の法律を適用することにした、但し母國法を適用すると云へば仰々敷聞ゆるが、母國法の適用を受くるは唯白人だけである、土人に對しては全く命令權で立法をなし、裁判をなして居る、獨逸殖民地では約千三百萬人の土人に對し約三萬人の白人が居る、土人特殊法の權限は保護領地法第四條に規定して居る。

母國法が領事裁判に適用せらるゝ際には澤山な除外例がある、それをまた殖民地に移すに當りては更に多くの例外を法律に認め且つ命令權にて作ることを委任してある、例へば民法の不動產に關する規定は完全に適用せられぬ、戸籍法も變体なものである、商法に付ては殖民地の商慣習を最先に適用し、慣習法に別段の定めがなき場合に帝國法を適用する、又殖民地には帝國の私法で認めて居らぬ拓殖會社と云ふものを認めて居る、此會社に就ては保護領地法に三個條の規定あるだけで其外には何にも法律なく、聯邦參事院と帝國宰相で特許し監督する一種の自由寛大なる組織のものである、統計によれば現今獨逸殖民地事業に投ぜられて居る會社資本は約八千萬圓であるが、其中約五千萬圓は此會社の資本で、其他は民法、商法の株式會社や有限責任組合である、刑法の方面にも多數の例外がある、例へば判事の職權が非常に廣く檢事の職權が非常に狹く、犯罪の搜査起訴、刑の執行まで判事がやるので、全く中世の糺問主義に立戻つた樣である、又裁判は民事刑事共に二級審で、本國の如く强制辯護士を必要とせぬ。

私法、刑法、裁判制度及び土人の司法制度などと述べたいが、斯る問題は內容を説明せざれば何にも利益にならぬ又長くなるから省略してをく。

要領は母國法は夥多の例外を以て更に適用せられ、土人は全然命令權の特殊立法に服從するものであるといふことを記臆を乞ふのである、此次には各國の殖民地に於ける教育制度を研究して見ようと思ふ(完)

●江西の無煙炭鑛 平壤の百瀬廣之助氏より採掘方を願て其筋に出願中なりし平安南道江西郡東部面無煙炭鑛八十二萬九千三百二十坪の鑛業權は本月一日付を以て許可せさる

●五月中平壤貿易 五月一日より十日までの平壤貿易額は輸移入二十四萬九百九十六圓輸移出九萬八千四百八十九圓外に金塊移出二十五萬五千九百圓ありて合計三十五萬四千三百八十九圓に達したりと

●平壤手形組合狀況 平壤手形組合における五月の取扱高は保證額八萬八千六百八十四圓仕拂額八萬七千七十八圓前月末越高十六萬四千五百九十二圓にして差引き月末現在十六萬六千百九十八圓なるが之を昨年同期の保證九万三百七十五圓仕拂八萬七千二百四十圓月末現在十九万二千六十五圓に對比すれば約二萬臺の減少を示せるものとす

●肺結核豫防(七)

贊化病院 河野作藏

▲肺結核の傳染

麻疹の如きは小兒病として避くべからざるものと考へ無頓着に過す人あるも之れは甚しき間違にて肺結核にて斃れたる小兒の既往病を見るに大抵麻疹や百日咳に罹りしことがあるのである其外社會的關係及職業が肺結核の素因となるものである人屋內に閉ぢ籠り讀書三昧に耽つて居るもの外出し運動もせず氣を散らすこともせぬと肺病を起すといふことは素人の口より日常耳にすることであるが是れは實に容易く得た眞理で實驗上より割出されたものだ其理由は説明するまでもなく凡そ坐業を營み彼に精神を過勞する場合には深呼吸をなさず新鮮なる空氣を吸入せず運動は不足し從て食欲は減じ身體の生活機能が鈍くなり外氣溫度の變化と對する調節力を減じ容易に寒冒に罹ることになる斯の如きものに結核菌の浸入の機會あらば繁殖して病を起すことになるのである一般に室內職業を取るものは室外職業を取るものよりも多く次ぎに室內に於て多人數密集し塵埃の發する職業を營むものは塵埃多き程統計に肺結核に罹るので製本職とか建具職とか石版職とか煙草製造職工等の如き職業的關係は唯一の原因となるのである金滿家の肺病は治癒するが貧乏人の肺病は癒らぬとの悲哀的絶叫は是れ衣食住の不充分なると過勞の爲め肺結核の經過を不良ならしむるがゆへである肺結核は其初期に於て相當の治療を加ふれば治癒するのである金滿家は所謂相當の治療なるものを實行することが易きけれど貧者は悲哉治療を行ふことが難く急激なる經過を以て發病後半年又は一年位で黄泉の客となるの而かも病毒を散亂して病の後繼者を多數殘し其轍を蹈ましむるのである

●夜學校めぐり(五)

山村生

僕の手帳にある夜學校名は九十一校あつて、其中三十二校ダケ、參觀したが朝鮮義塾とか漢陽學堂とか云ふ風に、恐しい名を附けて居る學校で學生總計一名などゝ云ふ振つたのが少くない。兩校樣の空などには、一種の異臭を放つ所も多いから一先づ、今夜限りで、夜學めぐりは辭任する、ハヽ、明日よりは、龍頭蛇尾生とでも、何とでも、御意なさいませ。

○○第十夜○○開進學校○○

草洞の開進學校を覗いた、學生は二十名程で、日本人教師は居無い、鮮人の教師が親切に教へて居る。日本人教師から學ぶ方が、説明も解義も、便利であるけれ共、扱愈々、西洋人の前に出た時に、押しが利かなくて困る、之と同樣に鮮人の日語研究も、人に考へねばなるまい。

○○同夜○○觀鏡學校○○

中學樣にある、日本人教師が、文典か會話かを教へて居ると、三十余名の生徒が、一生懸命に筆記して居た、何は兎も角、今更ら乍ら、朝鮮人の語學的人種であるには、驚いた。

以上學生數何名とあるは、出席生徒數であるが、毎夜百名以上の學生出席するものは只一校のみだ、十名以下の學校は三十二校中に十四校あつた

ウエルス

◎新刊紹介

▲●●●新公論(民族號) 世界人種大別して六十、民族別れて又幾百其人口總て十五億、民族論實に興味と實益ある緊急問題なり此重要問題の解決を聞かんと欲せば本誌を繙くべし載す所海野幸德氏の「人口論上より世界人種の興廢を論ず」丘博士の「黄白二人種對峙の大偉觀」坪井博士の「人種別の起源」を始めとして久米博士福本日南氏松井介石氏等の人種民族に關する所說あり書不朽大字宇尊村隱士の「人物評論」鷲城學人の「長閑の寵兒柴田家門」等肺腑を貫く此他例により趣味多き記事充備す(一部二十錢東京市本郷區東片町新公論社)

▲●●●實業之世界(第八卷十一號) 三宅雪嶺博士の「善人らしき惡人と惡人らしき善人」社說「實業家に衛を與へよ」其他例により忌憚なき論評を試み一讀快哉を叫ばしむ(東京芝區愛宕町實業之世界社一部十一錢)

▲●●●內外教育評論(第五卷第六號) 文學士木山熊次郎氏主筆たり本誌所載重要なるものは社說「心理的智識必要」某文學士の「勅語教育の反面觀」樋口勘次郎氏の「高等國民とは何ぞ」小西視學官の「四箇の注意を提供す」等にして其他教育家の一讀すべき記事を以て充さる(東京青山高樹町內外教育評論社一部十五錢)

▲●●●精神修養(第二卷第六號) 通佛教を鼓吹し人心に稗益する所多き加藤咄堂安藤鐵腸日目木智璉等諸子が執筆せるもの孰きも佛教臭からず殊に各方面に亘りて大家の說を網羅して加ふるに趣味深きを以てす(一冊十五錢東京市淺草區黑船町精神修養社)

召使お初

第七十回 黑法師

「さ、立て」

佐十郎はつッと立つ、猿の如き手はお察の腕に掛りてありき、されどお察は身も動かさゞりき

「さ立て、立てと云ふを聞かぬおぢや喃」

佐十郎は力を籠めてぐいと引く、東軍流の達人は、その奥樣を一婦人の上に試んと謀れるなり

されどお察は動かざりき、宛ら地より生じたる大木の如く、少しだも身を動かす事なかりき

「さと立たぬか」と佐十郎は物凄き聲を浴せぬ

「立ちませぬ」とお察は沈着きて「此手をお放しなされませ」

「いや、放さぬ、我等云分の立つまでは、腕折れても放さぬのおぢや」

「さらば私を什麽となさるお心でござります」

「同道して他國へ參る」

「あなた御自由にはなりませぬ」

「ならぬとて此まゝ置かうか」と佐十郎は滿面を朱の如くして「立て、立て、きと立て」

滿身の力を腕に籠めて、腕も拔け、骨も碎けと、引き立つる、その刹那、間髮を容れ難き刹那、お察の姿は電光の閃く如く動きたりと見ねしが、佐十郎は筋斗打つて、椽の下に倒れたるまゝなりき、お力は什麽とも知らず兩眼より迸る涙の中より

「お察どの、ようなされ下さりました喃、斯ほどの不器量、斯ほど不調法の身を持つて、立身出世を願ふは、樹に緣て魚を求むるよりも難うござります」

「此方大恩を忘れたな、大恩を忘れて拙者に恥辱を與かせたな、油斷には誰でも破れる、我等に手出しするからは此方腕に覺えがあらう、正木佐十郎相手になる、これへ出、きつと出」

刀の柄に手をかけぬれお察は莞爾して

「不禮は御免し下さりませ、私共見る陰もない女、あなた樣れ相手致すやうの者ござりませぬ」

「さういふ此方什麽として手對なした容赦はならぬ、これへ出」

「唯御免しござりませ、理不盡れ詞、それをれ斷り申し上げたばかりござります」

まことに好い見せしめ、六尺の大男、うの樣は何事おぢや、ちとは恥辱を知れ、ちとは親の身にもなれ、親の心にもなつて恥辱を知れ」

「もし若旦那樣」と傷兵衛は見るに見かねて「お母樣にお詫なされませ、斯樣な恥辱をお受けなさるも、あなた樣お心掛けが好くないからでございます、これからはお氣を附けなされませ、氣を附けて御修業をなされませ」

親切に引き起す、佐十郎の側にすり寄りて、これを機會に佐十郎はむつくと起きて、蒼く土の如き目に、きつとお察を睨みたるが

「ならぬ、ならぬ、什麽と申してもならぬ」と佐十郎は一刀をすらりと拔く、寄葉を漏るゝ日の光りは、ろい尖頭にきらくと照りて、怖ろしきまで殺氣立ちぬ、お察は椽端に手を支いて

「あなた樣お相手致すほどの者ござりませぬで此まゝ御免し、幾重にもお願ひ申すでござります」。

南大門 時間表

京釜間

仁川間

廣告

●貸地

京城本町一丁目壹番地約四百坪內外望の方は郵便局前田中屋迄御申込あれ

最上醬油

登錄商標 山十

醸造元 千葉縣銚子町 岩崎重次郎

發賣元 京城本町壹丁目 三巳商會 電話七五三番

公告

常會議所議員定期半數改選及增員議員選擧ニ付來ル六日ヨリ十日ニ至ル五日間常會議所內ニ於テ毎日午前九時ヨリ午後四時迄選擧及被選擧人名簿ヲ縱覽ニ供ス

明治四十四年六月五日

京城日本人商業會議所

會頭 山口太兵衛

移轉廣告

弊店儀今般左記ノ處ニ移轉仕候間此段廣告候也

京城壽町一丁目(日本人商業會議所前東へ入ル)

東京田中五庄堂代理店
藝防抄紙株式會社代理店
三益飯炊釜發賣元

其阿彌直次郎(電話一四二五番)

豫約募集

朝鮮總督府 警務總監部 屆濟(交詢社式)

朝鮮紳士錄

定價一部 金五圓 總クロース金文字入 菊版千ページ內外

豫約特價 前金一部 金參圓

申込締切期日 六月三十日

發刊 七月三十一日

登載事項 政治家、軍人、官公吏、經濟財政家、實業家、工業家、農業家、醫師、辯護士、敎育家、宗教家、美術家、新聞記者

以上の外朝鮮總督府、中央地方各官衙、軍司令部、師團司令部、各民團、各商業會議所、各國領事館職員錄及び銀行會社、學會、敎會、寺院、協會、俱樂部等の要錄等を併載致候

本社は一昨四十二年を以て第一朝鮮紳士錄發刊の企を爲し幸に江湖各位の御賛同を得て其業を完ふし致候、爾來年を重ぬること二、此間日韓併合の事あり世は一樣に新となり、從つて新舊人物の入替等も多々有之候茲に於てか本社は時世の必要に應ぜんが爲め前版を改訂增補し第二朝鮮紳士錄を發刊することゝ仕候思ふに本紳士錄が半島及び內地に於て信用調査其他交際取引等に汎く便用せらるべきは過去の經驗に徵して明かなるところに有之候仰ぎ願はくば江湖の各位幸に本社の微志を諒とせられ續々豫約御申込相成本社今回の擧を御援助あらんことを茲に謹みて公告仕候

三月

朝鮮京城西小門通り

京城新報社紳士錄出版部

電話六六三番 振替口座京城四五六番

日本內地申込所 東京京橋區南佐柄木町七番地(電話新橋八七三一)

京城新報社東京支局

（二）　（第三種郵便物認可）　明治四十四年六月七日　京城新報　（水曜日）　第六百九十七號

東京電報（六日發）

▲軍醫總監新任　海軍軍醫總監及主計總監本日左の如く新任せられたり
任海軍軍醫總監（二等）　海軍軍醫大監　淺川 莊吉
任海軍主計總監　海軍主計大監　加藤八太郎
昇敍高等官一等　海軍軍醫總監　木村 莊介

▲騎兵特別演習　本年度騎兵特別演習は來る十七日頃より愛知縣名古屋附近に於て擧行する事に內定せり

▲海軍中將新任　本日左の如く昇任ありたり
任海軍中將　橫須賀工廠長　海軍少將　坂本 一
吳工廠長　海軍少將　伊地知季珍

▲新貴族院議員　左の如く任命ありたり
井上 勝之助
貴族院令第一條第四項に依り貴族院議員に任ぜられたり

▲新任機關少將　左の如く昇任發表せられたり
海軍機關大佐　關 重忠
任海軍機關少將

▲大雨と列車轉覆　四日前江津［illegible］の地方大雨ありて［illegible］驛間進行中の貨物列車が［illegible］結果二十輛の內第八輛目より分離し九輛脫線轉覆したり

▲日英博の行賞　日英博覽會に於ける事務官和田彥次郞氏以下職員行賞書類は大藏省より桂首相に進達せる結果賞勳局に於て目下調查中なるが近日閣議決定の上發表せらるべく和田氏は勳一等に敍し旭日大綬章を賜はるべし

▲外交官試驗　來る九月四日より外交官及領事官の試驗を執行す

▲英帝の御謝電　［illegible］英皇帝陛下より［illegible］御謝電を［illegible］

▲世王子の見學　東京府［illegible］御用邸の朝鮮世子殿下には［illegible］七月二十日を以て［illegible］

▲大博と敷地問題　來る五十年を以て開催せらるべき日本大博覽會敷地として靑山練兵場に續く代々木御料地の一部を使用する必要あるを以て同會［illegible］との間に交涉中なるが近く決定の運に至るべし

▲濟生會世話人會　濟生會世話人會は五日夜首相邸に開かれ華族有爵者の寄附は公爵相談の上決定すべく官吏は勅任官年俸十分の一奏任官年俸［illegible］以上十五分の一其以下［illegible］を寄附することに協議し其の醵金は二ケ年月賦に決定したり

▲東京新電燈の認可　東京新電燈［illegible］三日認可せられたり

雜報

●米價騰貴と窮民　小原地方局長談

米價頻りに騰貴し細民塗炭の苦みに泣くと之に關する小原內務部地方局長の談に曰く

●如何にも事實也

故に當局に於ても折角注意を拂ひ各地方官を通じて其程度如何を調查し善後の策を講ぜしめ居る所以なり爾來各方面の報告によれば彼等細民の喫食し居れる食用品は實に悲慘の極みにて何れも草の芽樹の皮木の實の類を少許の穀物に混じ饑渴を凌ぎつゝある有樣にして寧ろ想像の外に在り現に夥しく標本を送り寄せたるが一見悽慘の狀あるが而して之が救濟に就ては當局者若くは憲兵警察其他有志者の義醵を仰ぎて措置を施こし居れるが［illegible］て稍ゆるに退潮饑饉に起る現象にして必ずしも異とすべからざるに似たれども［illegible］めて見る特異の事實［illegible］進むで其影因を釋ね［illegible］わりと信ず吾が內地に在ても該詔書の煥發せらるゝまでは國民を指導すべき一定の方針存在せず之が爲めに各府縣區々の政策を施こしつゝありしが如かりしも爾來之を奉體して地方民に臨みたる結果は大に其面目を一新したり思ふに朝鮮の如き土地柄に在てはヨリ一層該詔書の適切なるを感ぜずんばあらず惟だ內地と朝鮮とは自から其事情を異にし民力の程度亦多大の相違あれば縱令之を定むるに就ても大に研究を遂げざる可からず要するに米價騰貴の爲めに細民塗炭の苦みに瀕すと言はんよりは更に其遠因に溯泥して之が救濟を計る事特に緊要なり云々

●平凡なる理由

［illegible］に歸着［illegible］思考す則ち多年惰［illegible］る結果今日あるを知［illegible］はざるは滔々たる彼［illegible］て現に今日三十錢を［illegible］暮らすといふ其日主［illegible］なるべし而して更［illegible］るに早く既に土地家［illegible］國家の中堅たるべき［illegible］る能はず之が爲めに［illegible］數なるも亦遂に般窮困［illegible］る所以なり以上其日［illegible］の者無どによつて年［illegible］を呈するを思へば必［illegible］を以て米價の騰貴に［illegible］し能はざるなり況ん［illegible］は彼等細民に非ずし［illegible］に屬するれや若夫れ［illegible］寧ろ進げで

戊辰詔書の如き

一［illegible］も講ふべき方針を樹［illegible］て治療を加ゆるの要あり

●定例長官會議　六日午前九時より總督府に於て定例長官會議を開き寺內總督を始め倉富、石塚、荒井、宇佐美、小松の各部長官、明石警務總長、俵副總裁、菊池小城の兩代理列席政務の打合せを爲し午前十一時散會したり

●滿鮮鐵道直通期

安奉線改築竣成後に於ける朝鮮滿洲各地鐵道連絡上の打合の爲め滿鐵運輸課員西村氏の入京し龍山滯在の事は其當時の紙上に報道せしところなるが四五日前同氏歸連の途次或人に語りたる言になれば釜山奉天相互間の直通列車を運轉するに到るは明年二三月頃なるべく尚は其際に於ける同區間到達時間は二十八九時間ならんと

●臨益水利工事竣工式

五日全羅北道益山郡孤頭山に於て臨益水利組合竣工式を擧行す來賓中村農務課長以下千余名來會者數千に達し當地未曾有の盛會なり（五日午後七時半特派員山神水鑑生電報）

●鐵道工事現狀

總督府鐵道局適營に係る京元湖南の兩線布設工事及京義線改良工事等六月一日現在の狀況を聞くに左の如し

▲湖南線工事　同線は全線百五十入哩にして昨四十三年四月より工事に着手し來る四十六年完成の豫定なるが六月一日まで完成したるは太田より連山まで二十四哩なるが尚は側線は同起點より九十三哩假工事は同裡里まで五十四哩にして完成したる太田連山間は目下建設列車の運轉を開始居るが成績頗る良好にして着々進捗し居れり

▲京元線工事　同線は全線百三十六哩にして昨四十三年四月より起工し四十七年完成の筈にて六月一日まで完成したるは三哩余にして目下建築列車の運轉を開始し二十余哩は工事の大部分を終了し尚は起點より六十一哩までは布設の工事に着手し漸々進捗しつゝあり

▲京義線工事　京義線の改良工事は去る三十八年より起工し本年度完成の豫定なるが昨今其の大体を終いたるを以て遲くも來る十月頃までは完成を見るに至るべし

●各道授產計劃（十）……咸鏡南道……

▲經理の一般方針　同道は總戶數十六万四千餘戶の內十三萬六千餘戶の農家あり而して其生產品約千五百万圓中八百萬圓は農作物に屬す若夫れ之が改良を計るに於ては更に大に增收を見るに到るべし又畜牛も農業に次ぐの副業的產物にして一ヶ年約三百万圓を算す次に水產に見るに明太のみを以て算するも一ヶ年百萬圓を占めせり又牧畜養蠶に於ても氣候風土甚だ好適せるを以て以上の產業に就き其事業を施設せり

▲種苗圃の設置　管內を六區に分ちて種苗圃を設け水稻大豆粟燕麥馬鈴薯の採種及桑苗樹苗を育成す而して同圃に於て育成せる種苗を普ねく之を配與し其結果十ケ年後には水稻二万七千二百二十五戶大豆三万六千九百戶粟二十二萬二千二百八十七戶馬鈴薯三千二百四十戶桑苗千六百二戶樹苗千二百三十六戶に普及し得る方針なり

▲畜產の獎勵　關係ある府十三郡共同の下に畜產技術員を設置し種牛の衞生及飼養管理の方法並姙牛の取扱其他一般畜產改良繁殖に關する指導を爲さしむ又府十三郡各郡業として牝牛の預託を爲す其數二百七十一頭にて在來種を用ゆ而して一戶一頭とし三年間に於て蕃殖の見込なき時は更に交換し之より產せる牝牛は被預託者に給與す

▲養蠶傳習委託　一府九郡の共同事業として既設の蠶業講習所に傳習生三十三人を委託す修了後は桑苗蠶種及器具を給與し生產品は最寄の聯組合に委託し或は府郡として內地の相當信用ある商人に交涉して共同販賣の斡旋を行はしむ

▲漁業委託傳習　一府十郡の共同事業として地方費施設漁撈傳習所に委託し其傳習場所は永興灣內及其外海北靑郡新浦外海利源郡內湖外海にして一府郡毎に三人の傳習生を收容す而して改良漁法を實習せしめ修了後は漁具を給與し漁獲物販賣に就ても相當便宜を與ゆ

▲人さまざま▼（四十七）　村田多忠君

漸く不惑を超ゆる僅かに二だといふのに彼の頭、若し夫れ鑞無地の羽織を着て、小倉の角帶に目鼻緒の前垂れでも掛けたら、伊勢屋の番頭宜しくといふ格恰だ、處が幸か將た不幸か肥後熊本藩の士村家といふ偉らい武班に產まれた爲め馬上劍を按ずる身となつたのである、偉大分の村田家に養嗣となつた兄弟姻戚悉く國家の干城であつて其中でも特に出色なのは海軍少將廣瀨勝比古君だ、則ち其夫人は勝比古君の妹に當る、憲兵に職を奉ずる事正さに十有七年隨分永いが尚だ中尉だ、極めて淡白で殊に如才ない、兎角鹿爪らしい憲兵士官には珍らしい、程愛嬌、富むで居る京城第二憲兵分隊長としての君の手腕に到つては、閣下の信任彼が如く厚きに徵しても知るべしである、決して門外漢の評隲すべき限りに在らずだ。

●瓦斯電氣分立　▲當局の方針定まる▼

瓦斯電氣の兩事業は一會社の手に混同經營を許すべからざる性質のものにて則ち此兩者は常に競爭的位置に在りて始めて公益を完ふする所以なるに朝鮮に在ては從來此原則を罔みし現に同一會社に此兩事業を許るし其弊に耐ゆべからざるものあり而して當局者於ても近來漸く覺知する處ありしが如く今後は斷じて其混立を許さゞると共に新設會社に對しても相當手段を講ぜらるべしと聞く

●電燈料値下期

京城商業會議所より日韓瓦斯電氣會社へ交涉しある瓦斯電燈料の値下問題は會社側に於ても會議所の提案に應ずる事に決定したるも今俄かに値下すべきに於ては需要者激增すべければ現在の機械力にては需要に應ずる能はざる事情あり故に是等の準備を整へ本年九月頃より値下げすべしと

●豫算の調查期　目下各部に於て明年度豫算の編制中なるが度支部豫算課に廻付し來るは本月卅日迄の筈にして全部廻付を待ち一應度支部にて愼重なる調查をなしたる上長官會議に附議す由なりと

●軍司令官登廳　微恙の爲め引籠靜養中なりし大久保軍司令官は昨夜來尤も輕快なりしより六日より登廳す

●檜垣長官の出張　既報の如く檜垣鐵道長官は五日夜第二次出張先より歸任したるか更に八日當地出發佐野澁谷の兩屬近野技手等を隨へ往復五六日の豫定にて管內巡視の筈なり

●秋山參事官着期　秋山參事官は七日夜南大門驛着歸任すべし

釜山より（五月發）

［illegible］歸任し入京候。◎［illegible］き出つ入りつゝメー［illegible］一万三千三百四十九圓六十九錢を算せり成程是ならば客月に於ける貿易額の［illegible］圖ノ增加にて活景氣と申す可く候。◎外國女記者來る見るからに嚴若にし［illegible］圖に到り市街展望して釜山今日の發達を賞し昨年玄關口の移住者數勝り見て［illegible］◎公職に熟れ而も最期迄勇悍に任務を全せし一巡查あり名を氏家忠次郞［illegible］來たと先方の竹刀にハツと眞向面を打たれ［illegible］ら心身鍛磨に勉めて茲に漸る厳に備む

●大國民（六月號）

國民黨の機關雜誌として侃諤の論議正々堂々政府を攻擊し言ふ所肺腑を抉りて完膚なからしむるものは本誌を措いては他に之を求むべからず而して本號重要の記事は社說「桂內閣最後の悲劇」奇警にして急切なる評論就中朝鮮に關するもの「井の角の總督辨護」「御用記者の迷語」「官大一望の疑立のみ」の三件を收む「後繼內閣の顏觸」「恩賜財團施藥救療金問題」「財界風聞記」寺尾法學博士の「大平洋中の日本」武富時敏氏の「虛僞の公債政策」福本日南氏の「浪人論」等經世家の一讀を要す「朝鮮總督政治の危機」これ又言はんと欲する所を言ひ得て餘す所なし此他「近世逸話」「編笠議員の懺悔」「爵取武士の說」「大相撲評判」等趣味湧くが如き讀物あり「身のトい斷」又無責任ならずと聞せるだけありて能く眞相を穿てるもの〻如し（一部十錢東京芝區今入町大國民社當地書林にて販賣しをれり）

八便　▲はがきだより▼　山靈水神生

錨を拔いて六時半、我が群山丸は巨鯨の浮べるが如き群島の間を縫ふて、鏡の如き海の面に黑き煙の渦卷く影を、宛も長蛇の躍るに似たる怪しき色に描き出しつ、風無きに逆立つ白き二條の浪のうねりを、暮れかゝる海路遙かにきざみつゝ、暗より闇の深きを逐ふて刻秒も已まぬ機關の響きのみ怪しく耳立たせ、死せるが如き海の夜の靜けさを、枕冷たき幾多の人々の、とぎれとぎれの夢を載せて駛つて居る（二日群山丸にて）

公人私人

▲豐田龍次郞氏（代議士）五日天眞樓へ
▲水島新々助氏（醫師）五日大邱行
▲直塚氏（醫師）五日鎭南浦行

▲仁川港の出入船舶▼
▲神代丸　七日大阪へ向出港
▲隅田川丸　同　長崎へ向出港
▲音羽丸　同　大阪へ向出港
▲彰州丸　同　大連へ向出港

●相場電報（明治町西村支店着）

銘柄	三日後場 寄付	三日後場 引	五日前場 寄付	五日前場 引
▲神戶電鐵	三四、〇〇	三四、〇〇	三四、一〇	三四、一〇
▲京阪電鐵	六一、二〇	六一、九〇	六一、〇〇	六二、七〇
▲鐘淵紡績	一〇二、〇〇	一〇一、五〇	一〇一、五〇	一〇一、五〇
▲大阪電燈	一〇七、二〇	一〇七、二〇	一〇七、三〇	一〇六、五〇
▲東京新株	九二、五〇	九二、五〇	九二、八〇	九二、八〇
▲大阪株式	一一六、六〇	一一七、〇〇	一一六、八〇	一一六、九〇
▲同直取引	一一五、三〇	一一六、〇〇	一一六、五〇	一一六、六〇

●仁川米豆取引所

●五日後場六七月出來不申▲八月寄十一圓六十錢▲最高十一圓六十四錢▲最低十一圓六十錢▲止十一圓六十一錢
●六日前場六月出來不申▲七月寄十一圓二十二錢▲最高十一圓二十五錢▲最低十一圓二十錢▲止十一圓二十二錢▲八月寄十一圓六十八錢▲最高十一圓六十八錢▲最低十一圓六十一錢▲止十一圓六十三錢

●大坂期米電報

●五日後場六月寄十七圓二十五錢▲七月寄十七圓二十五錢▲八月寄十七圓三十二錢▲止十七圓三十二錢
●六日前場六月寄十七圓二十三錢▲止十七圓二十五錢▲七月寄十七圓二十五錢▲止十七圓二十五錢▲八月十七圓三十五錢▲止十七圓三十二錢

內地巡禮日記（九）　水浪生

五月十一日、昨夜は京城の金賀勉君が、今朝は蟻生十郞君が共に出京中だとて訪ねて呉れた、逆旅鄕ハに會す、一種云ふべからざるの快感を覺へた。

話は元へ戻り、余は前號に於て帝劇見物の後ち赤坂某亭に行きしに、妓にて計らずも一場の喜劇を會見し、其喜劇が深く〳〵余自身に關せるものなることを述べた。今左にソレを披露す、次第筋書はコウだ。

赤阪溜池某亭の裏二階、森々たる夜の山王臺を暗中に透し見つゝ友人と余とは座した、暫くして入り來つたのが三人の歌妓、何れ劣らぬ山王臺下の尤物いかな其中傑出したのが林屋の林子でおつた。林子座に着き、少時余を凝視つゝありしが、驚きたる顏色して突然席を去つた。余其何の故たるを知らず、友人亦た其何の故たるを解せず、切りに婢に命ずるに林子を席に復せしめんことを以てす、婢階下に使す、少時にして林子と女將と現はる、ソウして氣味惡くも余の面前に座を占む。女將先つ口を開いて曰く「アナタは慥かに此れ見受け申した事のある方だ」と余曰く「それは間違なり、余は最近朝鮮より來れる者、爰んぞ夫れ夫れに見受申されし事あらん」と茲に到つて林子愈口を開いて曰く「妾は過る夜此所のいゝ女將と一シヨにアナタを帝劇場でれい見上げ申しました、其際アナタの御老母らしき方と御一所でありました」と、ナル程ソウ云はれて見ると余は去る三日の夜老母と共に帝劇へ行つた、併し林子等が數多き見物人の中から如何にして面識なき余を記憶するに到つたかがチヨツト疑問になつた、林子曰く『アナタの疑問は御尤だ、併し謂れを申せば判かりになる』ぞ。「三日の夜妾は此家の女將と共に帝劇に行き、席をミンストリルの傍へ占めた、妾の前方には洋服着いし肥つた紳士が老母らしき人と並んで席に着いて居ると見ると肥つた紳士は其老母らしき人に筋書を讀んで聞かせたり、幕毎に手を引いて運動場へ連れ出したり、說明をしたり、ソレはソレは中々良く勤めるのであつた、妾は此狀を見て老婦人が僅かに肥つた紳士の母人なることを判じ、所謂肥つた紳士、色は黑く顏は無格好にして男振りは甚だ惡しきも其親孝行な心掛は甚だ優しいものだ、アヽ妾は斯く來得べくんばコンナ優しい心得の人に我生涯を托したしと、恥かしながら妾は眞面目にソウ考へましたソウして其事を同行者なる此家の女將に打明けました、妾は計らずもアナタに因つて理想の良人を得ました、爾來アナタの事を思出す毎に一種の戀愛を受けて居りました。何事ぞ其肥つた紳士はアナタであつた、妾は先刻此座敷に入り突然アナタの顏を拜見して驚きました、ソウして夢寐の間もいい方といふ所へ足を向けるかと思へば胸も何も破れ戀情もコンナに盡きました」と、友人余の爲に林子に語らに余の近狀を以す林子三絃を手にし歌つて曰く

碇の瀨の瀨の瀨て打つ波は
　みんなお前の度胸試めし

普聲朗々山王臺の靜寂を破つた。

▲茶袋▼

▲或面にては總督府に出頭して、斯んなに米價が昂騰しては、窮民が增るばかりで甚だ困る、何うか此際防穀令を出して頂けますまいかと能々請願に及んだ▲小原地方局長は面接して、內地の百姓は麥や芋を喰つて働き、而ふして收穫した米を貯へて置く、故に米が昂がれば昂がる程安樂になる、然るに朝鮮の農民には其心掛けが無いから困まるのだとて、諄々と說き聞かせて還した、何りにも面倒とは言はぬ、ソレに臺ですら此通りだから、君等は何うしやないか—マサカ今頃防穀令も出せまいぢやないか▲京城鐵道から總監部に向つて自今水道の消火栓を使用する場合は、其都度當該に知照して係員の立會を求むべしと命令的の照會を發した▲此照會に接したる支角保安課長異赤になつて憤慨り、下級官衙たる京城鐵道が飛ぶ鳥をも落さんとする總監部に命令をするなど甚だ怪しからんと數回も早速該書類を突き返へした▲處が京城鐵道の申分によれば素人に矢鱈に消火栓を弄ぢ廻はされては、壓々瓦管に破裂を來すからであつて決して命令杯と四角張るべき程の問題じやない、何うも肋骨服を着ると詰まらん處に力瘤を入れるから困ると言つて居る。

親愛　勤儉　守規

●親愛、勤儉、守規●　左は南大門尋常高等小學校に於る校規である而ふして一ツ〳〵づゝ實行せしめて居る。

兄弟の如くせよ
友を呼ぶに綽稱をつけよ
物を儉にせよ
物を落すな
教室を清潔にせよ
校具を丁寧に取扱へ
下駄箱を整頓せよ
廊下は右を靜に步め
衣服は正しく着よ
便所を汚すな

[illegible]トルとも稱すべき釜山驛五月中の昇降客數字によるに乘車一万五千三百九十九、降車一萬二千八百八人此賃金合計[illegible]總移出入總計に百三十二万九千餘圓を計上せしも無理ならず四月に比して[illegible]出に八萬八千圓、輸移入に五萬二千餘[illegible]

[illegible]て赤花の如く美しく[illegible]タイムスの特派[illegible]迎への爲に來れる森山囑託と福田同隊て出發準備よすがに活潑に候。[illegible]の急行列車により官民有志に見送られ[illegible]

[illegible]察署に來襲[illegible]劍客なり昨日附屬醫に於て[illegible]院長來りて親切を極むる[illegible]天命[illegible]

多情多恨

京城藝妓の半生(廿八)
開進亭の金玉(二)

從に彼れの爲に特筆大書せねばならぬことがある、夫れは彼れが親に孝行すると云ふことだ、イヤ孝行とまでは行かぬとしても親に安心さすべく努むる事だ、前段にも申し述べた如く彼れの父は京城に居るが金玉は其の細い腕に太い棹を握つて夫れに依つて報ひらるゝ玉纏頭なるもので父を扶養して居るのである、義太藝妓として兎にも角にも一派の粹士間に其の名を唄はるゝ如に成つた動機は大久保君の盡力に依つたのである、大久保君は自分が教唆して京城に誘拐した弱みがあるから進んで之が紹介の勞を執つて聊か其の罪滅しをする事に努めた高橋君には待合のこの花で紹介されたのである、其後と云ふもの當然誰れよりも親しかるべき世話人の大久保君よりは高橋君と親しくなつた、趣味を同じく義太夫に有するが故と解するのが至當にして而して無事で御座んしようと心得る、大久保君から云ば一寸庇を貸して母家を取られた形である、頗る大に御愁傷を申し上げる次第である、金玉には附け回して口說き立てるのが有るけれども其の粹な所はホンマに好きだすんだが身分が番頭さんと云ふのでドモ如かんけに出戲だつしやろ妾の如なもんにどアナヤな事を云つて居るが併し此れを以つて一概に彼れを狡い奴と云ふのは可愛想であるのみならず實は之れ彼れの初心な所である何となれば身分が雜貨屋の伜▲こんでも其の粹な雜貨店の粹な番頭さんが[illegible]息子が[illegible]て襟いので斷然刎ね附けるのが勿体ない如な氣がするので現在の始末であるのだ、斯くの如れ人の好い彼れも敵手を見ては凄腕を揮うて其の腕を奮うの擧に出ることがある、其の一例を紹介する、彼れが十六歳の年の十二月五日の事安東縣から京城に來て浦尾旅館に投宿した○○と云ふ商人があつた夫れと情約が成立して金五十圓也を請取つて終うと彼れは急に強くなつて三日間と云ふもの浦尾に入り浸つて居た併し其の要求なるものを斷乎として斥けて應じなかつた、金は懷中に捻ち込んだまゝ馬鹿を見たのは其人である、デ彼れは其の場合何んと云つて夫れを拒んだかと聞けば彼れ即ち曰く「恐ろしうて〳〵」と餘り恐ろしかつた如な樣子も見へない、此れと申すれ客樣は御座いません相ですから何うぞ宜しく御引立て下さいます如に小生よりも亦願ひ致して置きます(終り)次は

清水席やん茶

第一樓と蟒お龍

▽第一樓主の辣腕に羅る 新町遊廓第一樓の活動發展は眼覺ましきものにて本店、支店を兼營し更らに第二支店を營むが如き樓主赤荻の敏腕の程思ふも物凄き心地こそすれ、扨は兎に角として何人が財源としての此の活動にやと內探せしに勿驚本名玉井りようと云ひ橫濱は羽衣町勢州樓とやらに於て辣腕を揮ひ蟒れ龍と綽名されし强者をタラシ込み大枚五千圓を出金させ扨て其を剋下の發展とは成りたるなりとぞ傳へらる、而して又此のれ龍が如何にして大枚五千圓を所持し居しかと云ふに彼れは本年漸に二十九歳なるが昨年中米國人某氏に落籍され其の寵愛を受け居 內證ねて勤め中馴染なりし獨逸人某に誘ひの水を向けママと之れを手玉に取つて右から左へ卷上げたる金子の額が積り積つて右の如くなりたるものなるが此れより先き赤荻第一樓主は娼妓仕入の爲め度々橫濱往復中前記勢州樓に登樓 旅費のつれ〳〵を慰むる爲めに侍らしたるが即ちれ龍なりき扨も緣は異なもの味なもの何處で何うして何う云ふ緣が結ばれぬと云ふ限りも無い況んや赤荻は稼業柄女を扱ふ秘傳を知れるより夫れに擢つたれ龍は一圖に賴母しい好いた人に思ひ込んで什無ひ次の逢瀨を指屈數へて嬉しがる程とは成りけるが何分にも京城と橫濱嬉しい首尾の思ふに任せぬを自労たいよと申し暮す最中に持ち上つた米國人の落籍話京城の人を橫濱、居、離しがつてのみ居ても駄目兎角は金錢を儲けての上と落籍された後懸命に働いて五千圓と云ふもの貯へ得しに喜び勇み赤荻に手紙を寄せ女房にすると云ふ條件で右持參金として來たので第一樓主の赤荻喜ぶまいことか泣いて喜び直樣に當地出立ー巧い事を例べて出金させ夫れを資本にして新妓十名を抱へれ龍は丸髷姿に妓達にれ女將さん〳〵と呼ばれてゝ得意乘り込んで見るべしれ女將さんなるものが一人なす二八迄ある、クワツとなつたれ龍赤荻[illegible]食つて蒐つたも元々自分の方で惚れて居るのだからチョロリと口車に乘せられ合點々々をして以來第一樓取締役兼支配人と云ふ重役に擧げられ本妻らしく仲睦しく利と芽出度し〳〵芽出度しが何時まで續くかしらんと心配してるものがある益配當を受くる筈に契約整ひた

木曾八景の一小野瀑布寢覺の南半里の處にあり中央線と此流と東の車窓は瞰下して南北す日光飛沫に映して美觀極りなし最避暑地に適す

罷の事朋輩衆に誘はれて外出せんと思ひしも肝腎の衣裳や帶の質屋に行て居るので氣が氣でなく居ても立ても居られぬより忽ち右の質屋に驅付てよく事情を打明けて御預けしておく彼の帶をドーカ今日二時間斗りでよいのですが是非不憫と思ふて貸して頂きたい乾度二時間の後には持て參りますからと言葉巧みに云ひければ質屋の妻君上得意ではあるし氣の毒にもあれと思ひ出しそれなら一寸丈け御貸し申しますと云はれては否は雀躍ながら持返り其の日の外出に間に合たの、朋輩衆の前に顏も立たれど其後何日過つとも質屋の方へは返さぬより質屋の妻君矢の催促己に警察沙汰にもならんとする權幕には居たまらず帶の替りに袷を入れて漸く其埒は納りがつきたるが早くも其の行衞たる知る人ぞ知る寺町三丁目の大○とかに預けて相も變らず御客の尻ぬぐいとは克くも出來た女なり

●駐屯軍を詐欺す

大坂府當時本町一丁目石炭商渡邊福次郎は[illegible]兵隊に石炭を販賣して千餘百五十噸を納む可き筈の分を當該掛官に贈賄して七百噸を納付して三百餘噸を詐欺したる事其の筋に探知され京城地方裁判所檢事局に取調中なれば事實の眞相は後日詳報すべし

●昌德宮警察署道場開き

昌德宮擊劍道場は今回落成したるを以て六日午前十時より道場開きのため擊劍大會を催す由にて京龍の各警察署憲兵分隊より多數出席者ありと

●酌婦と質屋

仁川寺町二丁目某料理店の酌婦兒玉よし(二三)は素適滅法界の美人と云ふに非ざれども娼質柄に似合はず一度登樓した客でも一寸樣子でも好ければ自分の方から客に惚れ仕舞ふと云ふ鹽梅で男の爲めに年中質屋通ひ斗りして居るので最早入質すべき物品は悉皆なく成たので昨今は薔薇に鹽の風情、いや去迚煩悶の淺ましさ人の着飾りして出る處へは矢張り人並みの面を仕て見たいのは道理此の

●鼠賊質屋を襲ふ

仁川龍洞三十七統三戶質商川上榮次郎方へ五日午前一時頃より同五時迄の間に於て椽下を掘り屋內に侵入し主人の寢室に忍び込み枕元に在りし金額凡そ四圓餘入の手提金庫其他時計衣類等品等六十六點見積價格金八十圓餘を窃取し逃走したる曲者ありたるが被害の狀況は同家は朝鮮家屋を修繕したるものなるが商賣柄と云ひ中々堅固な構造にて容易く侵入せらるゝ憂なき程なるより察するに賊は少なくとも三人位にて共謀したと申し[illegible]

[illegible]家人の就寢を窺ひ忍び入りたるものならんと其筋にては目下犯人の嚴探中なり

●假出獄を許さる

黃海道延安郡延安邑金龍仁(二二)は窃盜罪に依り仁川支部に於て懲役二年半の判決を受け仁川分監に於て受刑中の處改悛の狀顯著なるの故を以て假出獄を許可せられ去五日午前十一時無事出獄せり因に出獄後は淨土宗仁川寺內仁川救護院に於て引受け保護す筈なりと云ふ

●入院患者慰勞會

五日午後六時より總督府醫院內俱樂部員の主催にて目下同院へ入院せる患者ノ慰問會を開催し目下來遊中の高峯筑風氏の筑前琵琶並に愛國婦人會所有に係る活動寫眞等あり大に患者及附添人等に慰藉を與へ同九時頃散會せりと醫院職員も患者に對して如此同情を寄せらるゝに至りしは院長の統率現實せらるゝを喜ぶものなり

●洗濯屋の亂暴

龍山鐵道構內洗濯屋橫山方雇人熊本縣人田尻又八(三五)は南大門外酒幕にて一杯飲み亂暴して南部署に突き出され訓戒放免

●撲つて撲らる

別府細車夫姜福善(二五)は大貞洞の酒幕にて敵妓の蝸甫を亂打し笞二十に處せらる

●●●バクチ

南部𠮷洞趙先逢方雇人李永成(二八)姜成有(三二)金弘九(三二)金先西(三七)の四名は午前二時頃若草町一丁目加藤幸次郎方廊舍に於て賭博を爲し南部署に突き出され笞刑五十に處せらる

廓のさゝやき

▲今此の頃の新町の景氣は素晴しきものにて殆んど各樓とも三四人程宛はれ讓り申上げると云ふ始末 候此れ確かに市中小料理店減少の結果なるべく候▲擴張せられたる郵地に建築中の工事人、進捗し彼の取締所の近藤務員が[illegible]べき夫れなぞ美事に御座候

官製煙草 新小賣店の御取引は特に御有利なる御相談可仕候 久保田商店 電話一五三番

▲短氣者の日曜樓主短氣の損をツククと悟りて見れば腹も立たずと面白さうな顏を致し候由に候へども右の面白そうな原因は勉强に伴ふ繁昌に候加減が良いからに御座候と申者之れあり候▲玉家のオヤヂ曰く他家が皆んな座敷を奇麗にする自家でも一番何とかせざアなるめエナアと、イヤ尤も千萬良い所へ氣が注いた▲澤月樓主及び大桝樓主は本欄に於て廓雀の爲めに攻擊されたのを憤慨し病み此れ程にしてもれ氣に入らねば何うも困りますと申し[illegible]夫れ程に勉强するから繁昌するのだから油斷すべからず▲井門支店の女共チヤアない[illegible]艇來」皆オルガンを演奏する好に應じ之に合ひしてダンスる唱歌す 鏡鋏立ちをする等來ん事な と云ふ夫れは〳〵多藝に御座候樓主曰く但し客さまを冷遇ことは何う云ふもの皆下手で御座いますと巧い言を申居る▲澤月樓の若松は流行妓に御座候が何處が善いのかと云へば云ふ迄もなく顏も彼れも下等な上に足が大きく手も大きく其れ加けに背中に銅貨大の血痣があるは見物の爲めと埓もないことに候▲同じ家の粲は滿願で客を大切にすることと勿体な程 御座候とかにて嬉しがつて人の名も家も明にならんでは全然虛構の如く見られ」で面白くないから見合はしているのです(保)▲去る三十一日京城水原掛け總督府巡査沼田熊太郎君の實母死亡の葬儀は本願寺で盛る嚴肅に取り行はれた(會葬者)▲第一樓本店は客をベチンに乘せよ如なことをする妓夫は一圓五十錢で可いと云ひ登つて終つて扱書付けには三圓五十錢 附けて來ると云ふ風夫れに仲居ども飯を滿足に食べ居ないと見ねて客さい見れば何かれ取んなさい〳〵と五月蠅く强請する米の値が騰つたから無理もないが飯だけは腹 足る程食べさしても宜しからう(吃驚生)▲哀れな女を救ひ玉へと云ふ當人の○○內みち子に御情するが併し○○內にては拙者も能はざるに付宿所を當欄にて知らせわれ候は良妻を望む者也(無名氏)▲アハ、、(小僧)▲鰻屋の江戶川では少々の注文は使ひが無いからと云つてスグなく斷はるが彼れは損なことだと思ひます、鰻を食はぬからとて死ぬものではないから斷られたからとて自分の方から使ひ出す人はないから斷られ生)▲大和町のきよすの安價なることは申す樣もない何うしてア、安く賣れるのかと感心した(一寸食生)▲何ぞ御贔負に(小僧)

勿体ながつてる人が澤山に候▲第一樓本店の艶香と申すは容貌もよし人も客扱ひに拘らず餘り振はないのは何うした理由かと探つて見ると妓夫太郎の某なるものが肱を食つた念晴し客を他へ回すが爲めなりと▲井門支店の絹枝は同家の幇間と夫婦になりデコ〳〵の丸髷で「音郎や、昨夜は玉が幾つ付いて」▲同家より出でたる新妓濱枝は其命名親が大したものだから大いに留れるに相違なし存じ候勿論二枚に御座候▲元高島屋にて奴と名乘りし亂女郎は今度日曜樓から名を白雲と改めて老後の思ひ出に奮戰すべく出で申候其の名の白雲は頭に白雲がかゝつてるとの洒落には御座なく候▲皆春樓の小町は新聞社の人だ來たら振り飛ばすと申居候由に候(嵐閑子)●●●

●歌舞伎座

好人氣の裡に花々敷く旗を開座に掲げたる新派劇翠香園總出後之助一行七日三日目の藝題は「親の罪」全八場にして特に大道具大仕掛けなる由なり重なる配役は左の如し

石山義則夫人貞子(神邊)下宿屋ばゝ糸、捨子義夫(武田)新田晃(竹內)石山義則寄し金(月岡)安田玄齋、醫落生後に神學士阿川香樹(山田)石花子 松浦)仲居れ靜、石山玉夫(小松)安田咲子(木村)陸軍少尉後佐安田貢、親族曲淵左衛門(島本)石山家召使れ新(森田)安田家書生木村濟(清水)親族龍田賢江川)上川庄中(森本)丁稚長吉、親族石川光但(鈴木)叔父石山義正(森田)

▲一寸御伺ひ申上ます五六日前米倉町の第〇號官舍に居ました高等らしいが本町四丁目の赤帽子の二階に居る如ですが全体稼業は何ですかね(物好生)▲△△內ひく子さん對の淡路生れの女

平民文庫

仕事が済んだら先づ一杯！
サッポロ アサヒ ミュンヘン ビール

完全なる健康は先づ始に於て得らるべし
消毒殺菌
アイゼル
英國ニュートン、チャンバース有限責任會社製造
英國博覽會名譽大賞受領●歐米にて船艦兵營鐵道病院學校鑛山牧場農園工場及一般家庭に於て多年使用の結果卓効優越唯一の者と認められたり
英國皇室政府各國政廳衞生局御採用
(特長)四百倍に稀釋して偉大の殺菌力を有す●無毒且腐蝕性なし故に危險なし器具衣類を損傷汚害せず●鹹水硬水軟水又有機的溶液と即時混和す●氷凍又蒸散せず●取扱輕便價格亦低廉
製劑▲アイゼル液▲鄭醫液▲粉末▲石鹸▲齒磨等
發賣元 井上商店 [illegible]
(詳細說明書は御申越次第送呈す)

名譽銀牌受領
キリンビール

廣告

身體の丈夫は一生の德
弱き御婦人は中將湯を召上れ
子宮病 血の道 產前產後 良藥
本舖 東京 津村順天堂
代理店 京城 新井藥房

●看護婦及看護婦見習生 若干名
右採用す志望の者は本社仁川支局へ至急申込まるべし

絶縁廣告
黑川與之吉事
中村與之吉 當年三十六歳
右之者從來拙者の配下に相加わり居候處業者間に迷惑を醸する言聞知致候上は如何なる不所存を企つるやも難計依て今回斷然絶縁致候今後拙者の名義を以て乘り出候とも一切關係無之候間お取合無之樣致度此段爲念致候
明治四十四年六月六日
京城旭町一丁目百八十番戶
請負業 黑川初次郎

●天氣豫報 (五日午後六時) 南西の風晴

諸公債諸株券 現物賣買

迅速確實に御取扱可申候

兼業

京城本町三丁目

大坂野村德七代理店 田中友吉商店

電話九九三

神經をおづめ

腦病を全治す

島村醫學博士の有効證明を得たる健腦丸は、神經病に奇効を奏し、逆上を引下げ、便通を心能し、中風卒中を未發に防ぎ恐るべき腦充血を全治す

腦病全治新藥

健腦丸

記憶力悪き人、頭痛する人、皮膚にて氣分鬱ぐ人、常に腦神經を勞する人の必用藥は獨り本劑のみ也

本舗 大阪心齋橋

東京日本橋

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房

電話九〇四、一〇六八

振替口座京城十六番

眼科

京城本町六丁目

金井眼科醫院

院主 眼科醫 金井

◉貸金

健胃下腹丸

代理店

京城南大門通三丁目

新井藥房

振替口座京城十六番

電話一〇六八番九〇六番

鐵冷溫泉

鐵 冷 溫 泉 湯

此の溫泉は左の如き病に最も妙あり

一かつけ、痔疾、リウマチス、腰痛、中風、ひふ病、梅毒、りん病、子宮病、血の道、神經痛、やけど、マラリヤ、せんき、腸胃加答兒、肺病、ひんけつ症、きりきず、其他内用には鐵冷溫泉を併用すれば尤も効能あり

旅館 浴客貸席

長谷川町一丁目韓銀建築所北横手 電話一四一一番

韓國銀行

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候

電話 參參壹番 六百貳番 壹貳六つ番 壹貳六壹番

支店出張所（大坂、仁川、平壤、元山、大邱、鎭南浦、木浦、釜山、群山、馬山、城津、羅南、新義州、安東縣）

右ノ外内外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

懷中良藥仁丹

●仁丹に限る

湧き返る信頼の聲

JINTAN

仁丹

之を仁丹を、飲むとスグきく自然の證明イザく御服用あれ

朝鮮代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房

京城本町二丁目百三十銀行横

野呂齒科專門醫院

電話一〇四七番

名譽

光鳳

釀造元

仁川宮町三丁目

深見勝三郎

電話二四八番 電信略號フ

ライオン齒磨

心地に顏に清爽

齒磨 使ふ 夏の朝

懶氣直に消散

齒磨使ふ夏の晝

精神忽ち甦る

齒磨使ふ夏の夕

最も良き齒磨即ちライオン齒磨を一日數回用ふる事は最良の齒牙保全法なると共に亦最好の身体衛生法なり

▲粉と煉との二種あり

本舖 小林富次郎

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房

夏期好飲料

飲用適當

當所製氷は水道良水を使用するを以て飲用として危險なく且つ長時間の保存に堪申候

室内装飾並に冷室

所謂花氷にして草花を滿開の儘透明なる氷裡に凝結せしものにして艶麗なる美觀さ一見三伏の暑を忘るゝの點は夏期宴會席上缺く可らざるものに候

營業方法

電話にて御下命の節は早速配達仕候花氷は二三日以前御申込相願度御一報の節は直に參堂可成御便利相圖申候

製造並に賣捌所

西大門外アストルハオス横

京城製氷所

電話架設中に付取次

千三百八十二番

賣捌希望の方は御來談相成度候

龍山櫻町百十一番戸

毎日午後二時より五時迄出張

整骨專門治療院

主任醫 村田象一

但し先代よりの家傳と當時の治術とを斟酌し如何様の折骨難患も之を治癒せしむ

先代の門弟 助手 中野伊之七

義齒術一般

京城明治町一丁目（森村賀店隣）

榊齒術所

電話（六六九番）へ

家傳名灸（とや）

◉うちみ くじき はねつき

特にかつけ 胃腸病 專門

毎日午後二時迄點灸す

明治町一丁目百十番戸

荒川マッサージ院

夏帽子荷揃

パナマ 麥稈 學生用夏帽子

京城本町五丁目

丸二帽子店

牛馬犬猫 治療所

入院 隨意

京城明治町三丁目

院長 小川龜太郎

小川家畜醫院

（電話四二七番）

新荷着

浪平板 洋釘各種

多數御入用の御方は特に安價に御相談致可候

京城本町貳丁目

和洋金物商

佐野彦藏商店

振替口座 京城一六三番

電話一二〇番

南山町一丁目

電話千五百二番

茲齋流割烹

すゞ津祢

瓦斯コークス販賣

京城黄金町高等演藝館隣

酒井組

電話一一〇番

最上醬油

特約販賣

仁川 高雄支店

京城

芙江 公州 間 定期出帆廣告

芙江發毎日後一時四十分公州着後六時

公州發毎日前七時芙江着後四時半船内御客樣の娛樂用として新聞雜誌碁將棋盤等の備付あり

京釜芙江驛前 中條運送芙江支店

六月中 滊船出帆廣告

海州行

安來丸 八日、十二日、十六日、廿日、廿四日

海州丸 二日、十日、十四日、十八日、廿二日、廿六日、三十日

鎭津富里浦郵串行

三省丸 七日、九日、十二日、十四日、十七日、十九日、廿二日、廿四日

三吉里海倉德島行

成歡丸 七日、九日、十七日、廿二日

仁川本町四丁目

合資會社 秋田商會船舶部

電話一七三番七五〇番